



多くの病害虫が
発生します

茶



農業経営支援課
福手 裕三

これから秋にかけて光合成が最も盛んに行われます。この時期の葉量が樹勢維持や貯蔵養分蓄積に重要な役割を果たします。また、この時期に生育した葉は、母葉として来春の一番茶の生産に大きく影響するので、健全葉を多くつけておくためにも今後の管理が重要です。

《中切り更新園の処理》

一番茶後に中切り更新をした茶園は、中切り後60〜70日後になるとかなりの再生芽が伸びています。再生芽を放置しておくとも芽数が減少するので、中切り面より5cm（2葉くらい残した位置で）整枝しましょう。

《病害虫防除》

二番茶摘採後〜三番茶萌芽期の防除
7月上中旬は、コカクモンハマキ・チャハ

マキの第二世代幼虫の発生時期です。誘蛾灯やフェロモントラップで発生時期を把握しましょう。防除適期は、一般的に発生ピークの産卵期から7日〜10日後の若齢幼虫期ですが、脱皮阻害剤を使う場合は遅効性のため、産卵期に散布してください。

また、二番茶摘採後に降雨が多い場合は、山間部を中心に輪斑病が多発する可能性があります。入込み、5日前後で発病します。摘採後早めに防除しましょう。

三番茶萌芽期〜開葉期の防除

チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマは、高温で乾燥した気候が続くと多発します。この時期は10日〜20日で卵から成虫になり、成虫でも20日以上生存します。多発園では2回の防除が必要です。

また、降雨が多い場合は炭そ病が（山間部ではもち病も）多発します。開葉期と2〜3葉期の2回散布が効果的です。

《熱中症対策について》

毎年約20人が農作業中の熱中症により死亡しています。特に7〜8月の70代以上の方が屋外作業を行うときに発生しています。

『熱中症対策』

① 日中の気温の高い時間帯を避ける ② 作業前・作業中の水分補給と休憩（喉の渇きに関係なく20分おきにコップ1〜2杯の水分補給） ③ 熱中症予防グッズの活用 ④ 単独作業を避けるなどの対策をとりましょう。
暑い環境での手足のしびれやめまい、吐き気、頭痛、体がだるい、体が熱い、意識障害などの体調不良が見られたら、すぐに作業を中断しましょう。